

参考資料 3

●901_配信会場_Host

令和2年度 自然再生協議会全国会議 の開催について

令和3年2月16日
オンライン開催

令和２年度 自然再生協議会全国会議の概要

日時 令和３年２月１６日 １０時～１７時

開催形式 オンライン形式（ライブ配信併用）

参加者 自然再生協議会、自然再生に関心のある団体、自然再生専門家会議委員、関係省庁等 計５１名

- 次第**
- （１）はじめに
 - （２）基調講演 日本ファンドレイジング協会 理事 山元圭太氏
「持続可能な財源基盤とは ～ファンドレイジングの本質と手法について～」
 - （３）関係省庁からの情報提供
 - （４）自然再生協議会等の紹介
 - （５）意見交換
 - （６）パネルディスカッション
話題提供 自然再生専門家会議 委員長 鷺谷いづみ氏
「生態系スチュワードシップ」による「自然を活かした問題解決」
 - （７）過去の全国会議の開催状況について
 - （８）おわりに

基調講演

「持続可能な財源基盤とは～ファンドレイジングの本質と手法について～」

講師紹介



ヤマゲン
です。



山元 圭太

合同会社喜代七 代表

株式会社 Seventh Generation Project 取締役

- －NPO法人日本ファンドレイジング協会 理事
- －NPO法人ソーシャルバリュージャパン 理事
- －NPO法人かものはしプロジェクト 顧問
- －島根県雲南市 地方創生アドバイザー

1982年滋賀県草津市生まれ 同志社大学商学部卒
経営コンサルティングファームで経営コンサルタントとして5年、NPO法人かものはしプロジェクトでファンドレイジング担当ディレクターとし5年半のキャリアを経て、非営利組織コンサルタントとして独立。

2015年10月に株式会社PubliCoを創業。

2018年3月に故郷の滋賀県草津市で合同会社喜代七を創業。

2018年12月に株式会社Seventh Generation Projectを創業。

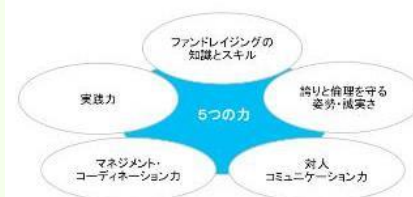
日本ファンドレイジング協会

- 2009年に寄付・社会的投資が進む社会の実現を目指して設立。2016年認定NPO法人。
- 民間非営利組織のファンドレイジングに関わる人々と、寄付など社会貢献に関心のある人々のためのNPOとして、認定ファンドレイザー資格制度の運営や子ども向けの社会貢献教育、寄付白書の発行などの取組を実施。
- 認定ファンドレイザー資格制度では、技能の認定によりファンドレイザーのスキルを向上させる、後進の指導や寄付市場拡大に向けて指導的立場に立つ人材を育成する等を目的に“認定ファンドレイザー”や“准認定ファンドレイザー”の資格付与のため試験や研修を実施。
- 企業・行政・助成財団・学校などからの要請に対して講師を派遣して、ファンドレイジングの基礎や社会貢献教育等のテーマにて講演や研修等を実施。



Certified Fundraiser
認定ファンドレイザー

ファンドレイザーに求められる5つの能力



日本ファンドレイジング協会

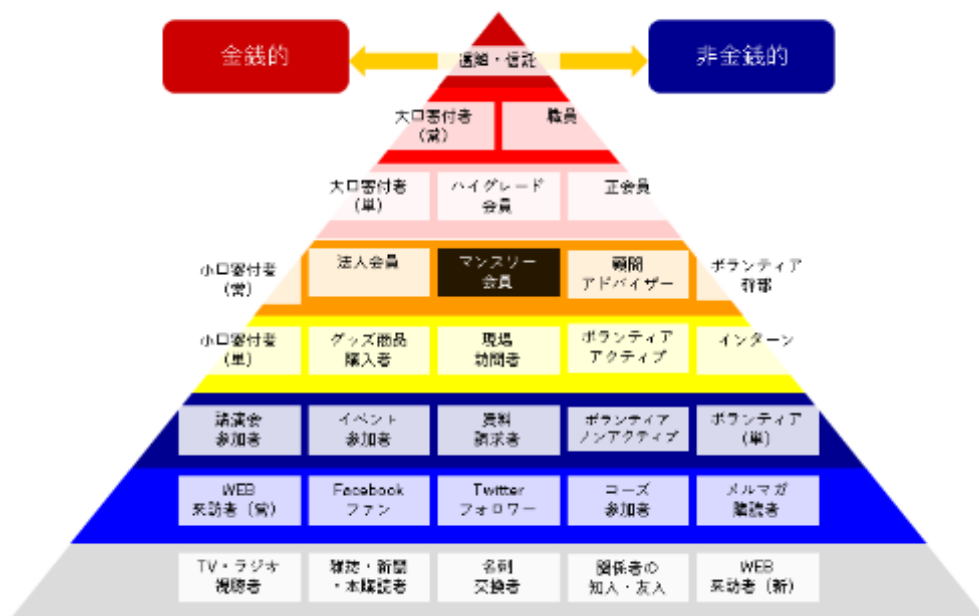
基調講演 「持続可能な財源基盤とは～ファンドレイジングの本質と手法について～」

フレンドレイジング

ファンド・レイジング → **フレンド・レイジング**
(資金調達) (仲間づくり)

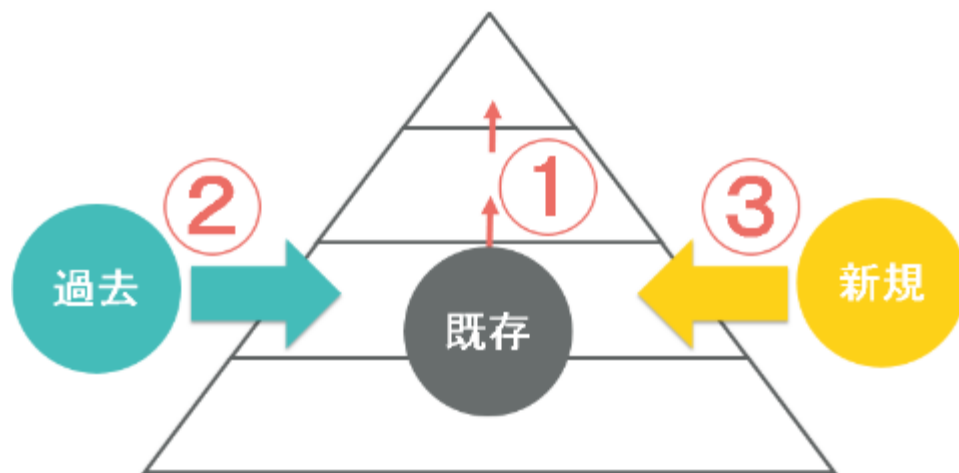
ステークホルダーピラミッドと働きかけの鉄則

ステークホルダーピラミッド



ファンドレイジングの鉄則

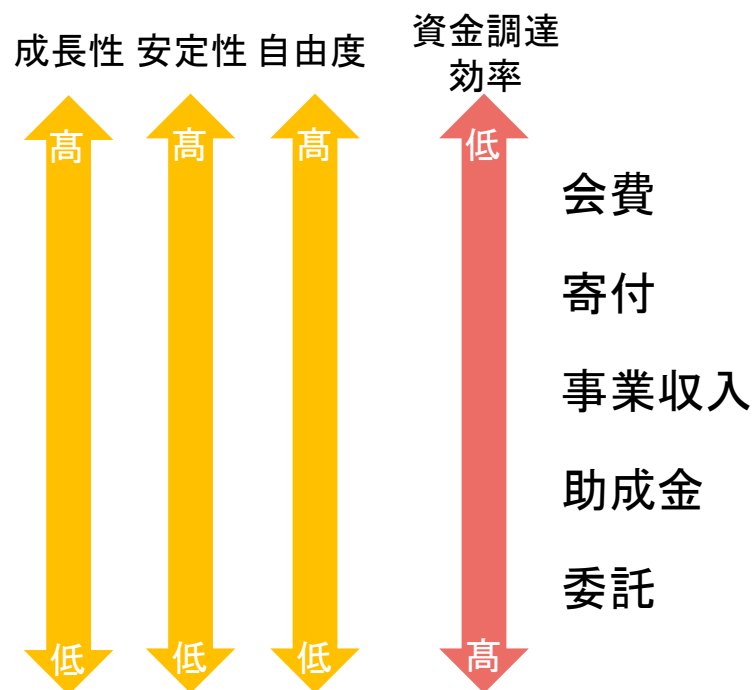
ステークホルダーへの働きかけは
①既存→②過去→③新規の順で取組むのが鉄則



基調講演

「持続可能な財源基盤とは～ファンドレイジングの本質と手法について～」

NPOの5つの資金源



- Step ① 委託・助成金
- Step ② 事業収入 or 会費・寄付
(対価の支払い能力がある受益者は?)
- Step ③ サービスを無償で提供→事業収入から会費・寄付へ
ノウハウを有償で提供→会費・寄付から事業収入へ
- ⇒ 5つの資金源が揃えば、持続性が高まる

ペルソナマーケティング

名前	ダイスケ	アイ	マコト	ヨウコ
写真				
年齢	28～33歳	28～33歳	39～44歳	39～44歳
家族構成	未婚/子どもなし	未婚/子どもなし	既婚/子どもあり	既婚/子どもあり
入会チャンネル	自団体イベント 講演会	自団体イベント 講演会	企業内講演会	メディア・WEB
会員化可能性	メインターゲット	メインターゲット	狙い撃ちが難易度高い	過去のメディアで増えた
特徴・動機	社会問題に興味あり(深層心理でかっこいいと思っている)寄付に興味を持つ	ボランティアや人にいいことに興味あり。丁寧な生活をしている。	仕事、子育てが忙しく、寄付への思いがあるが主体的にはアクションする時間がない。	「闇の子供たち」がきっかけ。子どもを救いたいという思いが強い
割合	8%	8.2%	7.2%	7.6%
家族構成	未婚 (恋人有り)	未婚 (恋人有り)	既婚 (子ども有り)	既婚 (子ども有り)
世帯年収	416万円	404万円	650万円	633万円
貯蓄額	380.8万円	305.4万円	640万円	640万円

- 「ペルソナ」と呼ばれる、データを基に作られた架空のユーザーが満足するように、商品やサービスを設計するマーケティング手法。
- この「ペルソナ」には、氏名や年齢、性別、住所、職業、年収に加えて、価値観やライフスタイル、身体的特徴にいたるまで、細かなデータが織り込まれる。

自然再生協議会等の紹介

- 26の自然再生協議会から、活動の概要の説明や、動画を用いた地域等の紹介が行われた。
- 協議会だけでなく、自然再生に関心のある活動団体も会議に招待し、挨拶と現状や活動の紹介が行われた。

自然再生に関心のある活動団体からのご挨拶と自己紹介

渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 猿山 弘子 事務局長

- 渡良瀬遊水池の生きもの調査や外来種駆除に取り組んでいます。
- 自然再生のことについて、しっかり勉強させていただきたいと思います。



NPO法人河北潟湖沼研究所 高橋 久 所長

- 湿地ビオトープの創出や湖沼の水質改善、清掃活動に取り組んでいます。
- お声掛けありがとうございます。自然再生協議会の立ち上げを目指していきたいと考えています。



NPO法人自然回復を試みる会ビオトープ孟子 有本 智 理事

- 孟子不動谷の里山復元活動、雑木林の整備や子供たちへの環境学習といった活動に取り組んでいます。
- 自然再生協議会の立ち上げを目指していきたいと考えています。



意見交換（3グループに分かれて意見交換を実施）

意見交換での主な意見

【コロナ禍における協議会の運営方法】

- オンライン会議は行っていなかったが、本日の会議をうけオンライン会議の必要性を実感した。
- 協議会内でオンライン会議が増加し、これまでより会議回数が増えた。
- 感染が落ち着いた時期に、広い会場を使用したり、感染対策を徹底したうえで会議を開催した。
- 全ての出席者の通信環境が良いわけではないため、オンラインでの会議は難しく、総会を书面決議で開催して何とか運営している。

【維持管理作業等について】

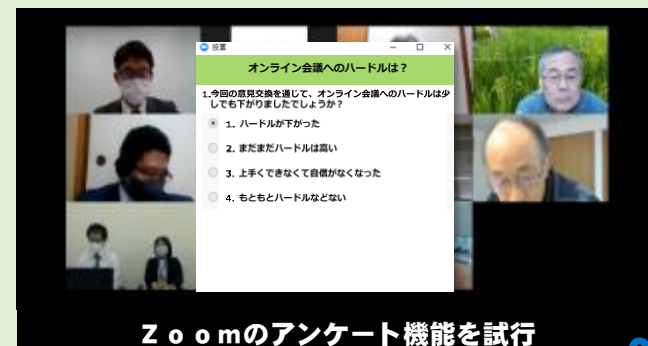
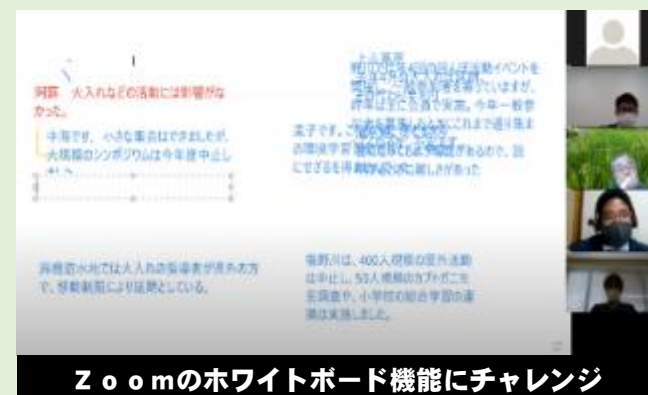
- 一般参加や企業からの参加は見合わせ、協議会主体で活動した。
- コロナ禍で活動を縮小せざるを得ない状況だったが、結局、緊急作業ということで、これまでどおりの維持管理作業を行った。

【屋内イベント】

- ソーシャルディスタンスを確保できるイベントに限り開催した。
- 開催時期や、特に飲食の提供を中止するなど内容を見直したり、パネル展示やクイズイベントなどの形で実施した。

【屋外イベント】

- オンラインとオフラインのハイブリッドで活動したところ、リモートで参加できるため、遠方からの参加者が増えた。
- 子供たちが集まるイベントは見合わせ、小学校を訪問して実施した。



パネルディスカッション

話題提供

講演者 自然再生専門家会議
鷺谷 いづみ 委員長（東京大学名誉教授）

演題 持続可能性と自然再生
～『生態系スチュワードシップ』による『自然を活かした問題解決』～



パネルディスカッション

【パネリスト】

進行役 自然再生専門家会議
神於山保全活用推進協議会
久保川イーハートーブ自然再生協議会
上山高原自然再生協議会

鷺谷 いづみ 委員長
田口 雅士 氏
佐藤 良平 氏
高月 崇成 氏



【意見交換概要】

- 激減した収入をなんとかするため、他の組織とも連携して神於山の竹を使ったふるさと納税の返礼品づくりを企画した。
- コロナ禍では思いのほかキャンプ場が混雑した。自然や緑に触れ合うことに、かなり需要があることをあらためて実感。
- 都市部から適度な距離にあることを活かし、ワーケーションでの活用推進、地域のファンを増やす検討を始めている。
- 観察会の参加者は減少したが、協議会ウェブサイトへのアクセス数が増加している。一般にもわかりやすい記事をBlog等で情報発信するなど、情勢に応じた情報発信が重要であると認識。

次期開催予定地からのご挨拶（石西礁湖自然再生協議会）

石西礁湖自然再生協議会
土屋 誠 会長（琉球大学名誉教授）



私どもの協議会は、かく乱をうけ危機的な状況にあるサンゴ礁の再生を目指しています。是非その様子を皆さんの目でご覧いただくことができるようになればいいなと願っています。

来年度石垣島であるいは竹富島で直接お話しできることを楽しみにしてお待ちしております。

動画による活動紹介

- 日本最大規模のサンゴ礁域（360種類以上のサンゴ）で多様性は国際的にも貴重。
- サンゴ礁からうける恵は多様（漁場、建材、防波堤、観光）。
- オニヒトデや温暖化による白化減少で被害。
- 地域の多様な関係者が集まり協議会を設立。
- モニタリング調査や研究、赤土の流出防止対策、サンゴ教育や広報活動等広範な取り組み。
- 子供たちにその重要性を伝えるのは重要な役割。



対象地域：沖縄県

再生課題：サンゴ群集の再生

石西礁湖自然再生協議会

再生 目標

長期目標（達成期間：2037年）

1972年の国立公園指定時の豊かなサンゴ礁生態系を取り戻すことを目指す。

- 事務局
環境省沖縄奄美自然環境事務所
内閣府沖縄総合事務局開発建設部
港湾空港技術対策官
- 対象地域
沖縄県石垣市、八重山郡竹富町
（西表石垣国立公園内）
- 協議会：H18. 2. 27 設立
- 全体構想：H19. 9. 1 策定
- 実施計画：H20. 6. 13 策定（環境省）
R2. 2. 16 変更（環境省）
（R2. 3現在）



石西礁湖は、八重山諸島の石垣島と西表島の間に位置する我が国最大のサンゴ礁海域であり、ダイビングなどの観光や漁業活動など、多様な利用がなされており、地域社会に対して大きな役割を果たしています。

陸域からの環境負荷、海水温の上昇等によるサンゴの白化現象、大量発生したオニヒトデによる被害等により、国立公園指定時に比べサンゴ礁生態系が大きく衰退していることから、サンゴ群集の再生に向けた取組を進めてきました。

全体構想策定後10年間の取組状況を振り返り2019年6月に作成した5カ年の行動計画に基づき、「待ったなし！今こそサンゴ礁への恩返しを」をスローガンに、今後より一層危機感をもって積極的に取り組んでいきます。

自然再生の手法

- サンゴ群集のモニタリングや修復
- 陸域からの環境負荷の低減
- 普及啓発や環境教育の実施



マンタ



カクレマノミ



サンゴ群集モニタリング



赤土流出状況